



いきいき

小富士っ子



R5学校便り No21

令和6.2.5

四国中央市立
小富士小学校

福「鬼は外、福は内」と「鬼は内、福は外」

ますます寒さが厳しくなっている中で、まだまだ春は遠いように感じますが、2月4日に立春の日を迎え、暦の上では春が始まりました。立春の日の前日、つまり2月3日は節分で、1年間に4回ある節分の中でも日本人が昔から特に大切にしてきた日です。日本の四季は春から始まるので立春前日の節分は年越しの日となることもあり、他の3回の節分には行事などしていませんが、2月3日（来年は2月2日で、2月3日でない年もあります。）には節分としての行事を行っています。その行事として恵方巻きを食べる家庭も増えてきているようですが、私たちの世代では、節分の行事と言え、やはり「豆まき」です。

「鬼は外、福は内」の掛け声を出しながら豆をまき、自分の年の数だけ豆を食べるのが一般的です。最近、豆をまき散らすと片付けが大変だったり、まいた豆は捨てられたりするというので、豆に代わる物をまいたり、豆をラップなどに包んでまいたりするなど、昔とは変わってきています。掛け声は、立春から始まる1年間に災いが起こらぬよう邪気を払い、病気をせず健康で幸運が巡ってくるよう願いを込めて、「鬼は外、福は内」となったのだそうです。一方「鬼は内、福は外」との考え

方もあるようです。鬼とは煩惱（欲、怒り、愚痴など）の象徴であり、その煩惱を自分の内に押し込め込むことが大切だから「鬼は内」で、自分の周りの人々がみんな幸せになるよう「福は外」とする考え方です。その考え方からすれば「鬼は内、福は外」も良いなと思います。鬼と仲良しの鬼北町（愛媛県北宇和郡）では、「福は内、鬼も内」なのだそうです。鬼を悪者扱いしないで、鬼とも仲良くしている町らしくて、それも良いなと思います。節分の行事も時代や場所が変われば違うものな



安藤千春先生作（現三島南中勤務）

のですね。こうあるべきといった固定観念に縛られることのないようにしたいものです。人知を超えたものを信じたり、頼ったりすることも否定はしないけれども、それだけになってしまわないように気を付け、願い事をかなえるための努力は忘れないようにしたいものです。そして、外へ追いやるか、内へ封じ込めるかいずれにせよ、自分の中の鬼は退治しないといけませんね。恵方巻きは、その年の恵方に向けて食べるのが良いのだそうです。恵方とは、以前紹介した「十干」と深くかかわっています。今年は甲の年なので、恵方は甲の方向となり、それが東北東だということです。縁起が良いなどとされていますが、これもまた、大して根拠はなく絶対ではありません。ただ、信じることで救いを求めたり、励みにしたりすることは悪くないでしょう。しかし、信じることで人にいやな思いをさせたり、自分の生き方を歪めたりしないようにしなければいけませんね。豆まきの豆はきちんと食べましたか、恵方巻きを召し上がった方は、食べ切れず捨ててしまったりしていませんか。節分は鬼退治の行事なので、食品ロスという新たな鬼をつくってははいけませんね。